九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

変革期を迎えた九大応力研技術室の中堅・若手職員による基盤強化活動の模索と実践 ： 技術室連携グループミーティング（CGM）の発足と活動

石井, 大輔
九州大学応用力学研究所技術室

https://hdl.handle.net/2324/1786451

出版情報：九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 14, pp.107-113, 2013-03. Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート vol.14, 107 ～ 113, 2013 年3月

変革期を迎えた九大応力研技術室の中堅・若手職員による基盤強化活動の模索と実践
― 技術室連携グループミーティング（CGM）の発足と活動 ―

石井　大輔

要旨

年齢構成不均衡に起因する半強制的な組織改編が間近に迫っている九州大学応用力学研究所技術室は、「急激な若返り」が図られようとしている。そのため、来年度から新しい技術室の組織体制ならびに支援体制が始動する予定であるが、現実問題として、残される中堅・若手の技術職員は今後自分たちの手で何をしていき、技術室という組織をどう築いていかなければならないのか。すなわち、今後の組織の中核を担うべき中堅・若手職員が、個々としてどのように存在し、組織の一員としてどうように相互連携を図っていくべきなのかが重要なキーポイントになる。

本稿では、2012 年度に中堅・若手が主体的に結成した「技術室連携グループミーティング」の目的とその概要について触れるとともに、基盤強化活動の一環として CGM で取り組んでいる内容について紹介する。

キーワード：連携グループミーティング・中堅若手・基盤強化活動

1．はじめに

近年、各大学・高専における技術職員は組織化される傾向が強く、また各部局で既に組織化されている技術組織が全学で一元化される昨今の動向も顕著である。このような全国的な潮流の中、九州大学（以下、九大）内で唯一の技術組織である応用力学研究所技術室（以下、技術室）は、既述したようなスケールとは異にするものの、組織化されて 15 年以上が経過する現在において、ある種の変革を遂げようとしている。それは、室員の年齢構成不均衡に起因した「技術室の急激な若返り」である。

本件は従来から予想されていた事案であったのだが、半ば棚上げ状態であった。現在は、目前に迫った現実を直視して山積した様々な諸問題に対応するべく、自身を含めた在職 10 年程度の中堅職員が中心となって、技術室の今後を見据えた将来展望や活動指針などを構想し、若手の技術職員を先導していこうと鋭意努力している。早くも次年度から新しい技術室体制が始動する中、今後の組織の中核を担う中堅・若手職員には、議論とともに相互理解を深め、様々な目標を実践していくための環境づくりが必要であると考えた。

本稿では、次世代を担う中堅・若手職員が主体的に結成した「技術室連携グループミーティング（以下、技術室 CGM：Collaborative Group Meeting）」の目的とその概要について触れるとともに、現在、基盤強化活動の一環として技術室 CGM で取り組んでいる内容について紹介する。

2．技術室グループ連携ミーティングの発足と活動

技術室における中堅・若手技術職員は、2012 年度から「横の連携強化」「個別業務に関する報告・連絡・相談（ホウレンソウ）と PDCA の教育・実践」「各種勉強会」「情報の共有／発信」「様々な創造や協働、提言活動」などを主体とした CGM を自主的に発足させ、毎週から隔週にわたって活動している。

現在、6 名で構成される技術室 CGM は、ただ闇雲に会議をして時間を費やすものではなく、参加室員が有意義な時間を共有すべく、様々な事案についてブレーンストーミングを交えながら情報共有や討議する場にすることをコンセプトにしている。すなわち、同会議は各人の「考え」「意見」「想い」などが重要となってくるため、会議中における各人への発言や課題に対する見解や回答を常に求める、ある意味、刺激的な環境となっている。

2-1．理念と活動指針

以下に、発足と同時に掲げた技術室 CGM の理念および活動指針を示す。

— 応力研技術室における「横」の連携強化と活性化、意識改革／行動改革を目指した諸活動
（シームレスな組織体系と支援体制への移行を視野に入れた初動と技術室の将来像の模索）

— 業務に関する報告・連絡・相談（ホウレンソウ）の定着とそれに伴う情報共有の徹底

— 業務への PDCA（計画・実行・評価・改善）の適用と業務効率化（協働／分業）の実践

— 勉強会・研修／講習・技能指導／技術交流などを通じた技能修得、技術向上、技術継承の促進
（OJT・OffJT によるスキルアップ）

— クリエイティブな人材育成とキャリアパスを考慮した教育／指導ならびにフォローアップ

— 自己啓発の奨励と様々な提言活動／啓蒙活動の推進

— 自発的行動による成果創出を実現するためのセルフマネージメント向上にかかる積極支援

2-2．主な活動内容

以下に、同 CGM の主な活動内容について示すが、あくまでも現時点の我々が考え付いたテーマ・課題（短期的・長期的）である。そのため、これらの中には既に軌道に乗って現在進行中の案件もあれば、今年度は未着手のテーマ・課題もある。

ちなみに、以下に示す各テーマの文頭に示す記号は、●：軌道に乗った現在進行形の案件、○：議論を進めていく中で方向性が見えてきた案件、△：現在も議論中で多くはペンディング中の案件、▼：議論未着手の案件、を意味する。なお、既述の判定は私見に基づくものであり、CGM メンバーの総意ではないことを付記する。

情報共有・円滑運営

- ○ 相互の業務内容やスケジュールなどの把握および情報共有
  - ● 業務報告制度（日報、週報、月報）の導入
  - △ 勤務時間外記録簿の積極活用
  - ● MASTER.RIAM のスケジュール機能の活用
  - ● プレゼンテーションによる紹介／報告
- ● 出張報告書、研修報告書などの書式一元化とそれら情報の管理／共有体制の構築
- ▼ 業績等評価の試行および今後の展開にかかる討議

成果向上・積極活動

- △ 資格・免許にかかる動向調査と保有の必要性を考慮した取得に向けた取り組み
- ● 科研費（奨励、萌芽、若手、・・・）などの外部資金獲得にかかる奨励／推進と実践
  - ● 研究課題の探索、申請書類の作成補助／文書校正
  - ● 過去の採択課題申請書を元にしたノウハウ習得勉強会
- ● 技術職員主催の技術研究会への積極参加ならびに研修会／講習会などへの派遣推進
- ▼ 他機関への研修や他機関との人的／技術的交流の促進
- △ 技術室としての学内開放への取り組みを検討

広報活動

○ 技術レポートにおける掲載内容変更（構成／レイアウトの刷新）の提案および技術室活動報告書の新規編纂に関する検討

○ 技術室ウェブサイトのリニューアルに向けた内容精査とコンテンツ検討

各種勉強会

△ 技術室に関する報告、教育／指導、課題などへのアプローチ模索

△ 組織としての現状と課題、将来ビジョンのたたき台について

○ 学外の技術組織の動向調査／報告

○ 各種勉強会の実施、技術継承にかかる年長者技術室員との協働

● 現メンバー内で知りたい／学びたいテーマの探索と講義形式／実技形式による学習

● 年長者によるプレゼン紹介、座談会、直接指導
（今までの実績・業務内容、技術職員／社会人としてアドバイスなど）

▼ 年長者が従事している業務に関する各種装置／機器のマニュアル作成依頼

○ 各種技術研究会にかかる要旨集作成の精査、発表練習や発表資料に関する指導

将来模索

△ 将来の技術室についての討議

△ 技術支援に対する業務分担の計画、実行化（分業／協働／Work Sharing）

▼ 業務支援体制に関する具体的な方策立案と運営形態の確立

△ 業務支援体制および応力研組織と連動する技術室組織体系の構想

その他

△ 九州大学技術研究会の運営関与（実行委員会への加入、活動支援など）について

2-3．具体的な活動成果と今後の具体的方針

ちなみに、前節で「●」もしくは「○」の判定をした案件の中で、いくつか特筆すべき点をピックアップして、以下簡単に紹介する。

◆ 技術室 CGM ウェブサイトの新規制作

⇒ 情報共有を主目的に様々な資料等を管理・公開、日週報をウェブ経由で提出（外観例を Fig. 1 に示す）

◆ 科学研究費補助金

⇒ 今年度は 6 件申請（奨励研究、萌芽研究）。うち 4 名は、CGM 発足を契機に初申請を達成

◆ 学内外における技術研究会での各種発表（口頭／ポスター）

⇒ 第 3 回九州大学技術研究会（2012 年度）：6 件、平成 24 年度愛媛大学総合技術研究会：6 件

◆ 「技術レポート」から「活動報告書」への発展的提案

⇒ 技術レポートの発行は本号で最終とし、代わりに次回から応力研技術室活動報告書の新規発刊を予定

◆ 技術室ウェブサイトのリニューアルおよび成果・業績等の対外アピール

⇒ 技術室新体制移行と上記活動報告書の新規発刊に合わせて刷新を予定

◆ 日週報制度の導入

⇒ 1-2 週間隔で報告会を実施（日週報は Excel VBA で作成。書式の例を Fig. 2 に示す）

◆ CGM 会議
⇒ 計 20 回開催（2013 年 1 月末時点。毎回会議資料と議事録を作成。議長は中堅職員で輪番制）

◆ 合同勉強会の開催
⇒ 計 23 回（2013 年 1 月末時点）

◆ 出張／研修等報告書
⇒ 計 14 編（2013 年 1 月末時点。報告書は Excel VBA で作成。書式の例を Fig. 3 に示す）

3．おわりに

2012 年 4 月に、筆者の単なる思い付きから（必要だと感じて）技術室 CGM の発足に関するメールを中堅・若手職員に投げて、早や 1 年が経とうとしている。本稿の内容は、他の大学や高専にとっては特に目新しいものはなく、どちらかと言うと既に当たり前に取り組んでいる事案ばかりかもしれない（恥を晒している心境である）。しかし、これが現在における応力研技術室の実態であり、逆にこの 1 年間は非常に充実した内容の濃いものを体現し経験できたと感じている。そして、このような想いを少しでも共有できる仲間が身近に増えたという実感を得たことは何よりの収穫であり、今後の技術室を皆の力で創造していく上において、非常に有意なことだと考える。

来年度からも引き続き、若い新人職員が技術室に入職してくる。その時に、今回の CGM を経験した現在 2 年目・1 年目の若手が「若手なりに」次の新人（後輩）へ何を伝えていくのか、何を一緒にやっていくのか、が非常に楽しみである。それと同時に、彼らを見守る中堅世代（自身を含む）の担う責任は重いはずである。我々が考え出す指針とそれに対する行動力が今後の技術室の舵取りに多大な影響を与えることを肝に銘じつつ、日々の職務遂行はさることながら、技術室の組織運営に対しても積極的に関与していくことが重要であろう。

最後に、中堅・若手の技術職員は今回 CGM を自主的に結成し、この 1 年間様々な課題に直面しながらも、その都度、解決策を具現化するなど積極的に取り組んできた自負がある。すぐに花が咲かないテーマは数多いが、このような姿勢と言動が必ずや将来の応力研技術室を支える骨子になることは間違い。今後も継続した先導と諸活動を行なっていきたい。

謝辞

CGM 発足当初から今まで一緒に活動してきた、中野智技術専門職員、東島亜紀技術専門職員、松島啓二技術職員、油布圭技術職員、野田穣士朗技術職員に感謝の意を表します。

Fig. 1　技術室 CGM ウェブサイトの外観例

九州大学応用力学研究所　技術室　(Technical Services Division , Research Institute for Applied Mechanics in Kyushu University)

日報・週報（2012 年　6 月）　／　第 5 週

班名	観測班
係名	観測技術係

職位	係長（技術専門職員）
氏名	石井　大輔

2012 年 06 月 25 日 （月）

部門・派遣先 休暇・出張等	業種	分野・派遣先 費用出処	業務名	常勤時間 (hh:mm)	超勤時間 (hh:mm)	進捗
技術室	G		CGM調査業務および合同勉強会講演資料の作成	2:30		○完了
技術職員全般	P		第3回九大技研関係者打ち合わせ（伊都）	4:30		○完了
その他・雑業務				0:45		

業務内容 作業メモ・備考：第3回九大技研の会合に伊都へ。各地区の関係者3名で様々なディスカッションをし、大変有意義な時間が過ごせた。

2012 年 06 月 26 日 （火）

部門・派遣先 休暇・出張等	業種	分野・派遣先 費用出処	業務名	常勤時間 (hh:mm)	超勤時間 (hh:mm)	進捗
技術室	G		CGM合同勉強会講演資料の作成	1:30		○完了
大気海洋	A	海洋生態系	研究室PCトラブルへの対応	0:30		○完了
技術室	G		技術室CGM	2:30		○完了
技術職員全般	P		九大技研にかかる雑業務	2:30		▲継続
その他・雑業務				0:45		

業務内容 作業メモ・備考：CGMが2時間を超え、討議できないテーマが生じた。各人の業務報告を簡潔にやるように提案。

2012 年 06 月 27 日 （水）

部門・派遣先 休暇・出張等	業種	分野・派遣先 費用出処	業務名	常勤時間 (hh:mm)	超勤時間 (hh:mm)	進捗
技術室	G		他大学組織の調査およびCGM資料作成	2:00		○完了
技術職員全般	P		九大技研にかかる雑業務、雑事経修正	2:30		▲継続
技術室	G		技術室の組織改革に関する検討および協議	2:00		○完了
技術室	G		CGM雑事録修正	0:30		○完了
その他・雑業務				0:45		

業務内容 作業メモ・備考：将来における技術室組織体系に関する討議を中野氏と行ない、ある程度の意思統一と方向性が確認できた。

2012 年 06 月 28 日 （木）

部門・派遣先 休暇・出張等	業種	分野・派遣先 費用出処	業務名	常勤時間 (hh:mm)	超勤時間 (hh:mm)	進捗
大気海洋	A	海洋生態系	沿岸計測用自動昇降装置の水槽実験	5:30		▲継続
技術室	G		CGMに関する雑業務	1:30		○完了
その他・雑業務				0:45		

業務内容 作業メモ・備考：自動昇降装置の水槽実験を福田氏・野田氏に手伝ってもらい実施。自動昇降にかかる難問題が顕在化し、試行錯誤で解決策を得る。

2012 年 06 月 29 日 （金）

部門・派遣先 休暇・出張等	業種	分野・派遣先 費用出処	業務名	常勤時間 (hh:mm)	超勤時間 (hh:mm)	進捗
大気海洋	A	海洋生態系	沿岸計測用自動昇降装置の水槽実験	8:00		▲継続
技術室	G		CGMに関する雑業務	0:30		○完了
技術職員全般	P		九大技研に関する雑業務	0:30		○完了
その他・雑業務				0:45		

業務内容 作業メモ・備考：前日に引き続き、自動昇降装置の水槽実験を実施。

2012 年 06 月 30 日 （土）

部門・派遣先 休暇・出張等	業種	分野・派遣先 費用出処	業務名	常勤時間 (hh:mm)	超勤時間 (hh:mm)	進捗
その他・雑業務				7:45		
業務内容 作業メモ・備考						

週間業務報告

実施内容 成果・問題点 その他：

週前半は、開催が初めてとなるCGM合同勉強会の講演資料の作成と今年度の九州大学技術研究会の打ち合わせ・内容検討に時間を費やした。合同勉強会の講演内容は、技術室の現状と将来構想についてで、若手への教育を兼ねて分かりやすく的確な表現に心掛けた。
週後半にかけ、沿岸海域で係留観測するための自動昇降装置の実機がテストベースで上がってきたので、その動作検証と改良点を洗い出すため、深海水槽で2日にわたり試験を行なった。試行錯誤しながら更に改良を加え、来年度以降、実際に博多湾で現地検証および導入できればと考えている。

開発／製作環境 利用ツールなど：沿岸計測用自動昇降装置

対策・改善点 次週予定など：CGM合同勉強会での講演、CGMに関する雑業務、九大技研に関する雑業務、技術室の組織体系に関する検討および新体制検討委員会、瀬戸内海・赤潮に関する研究および論文執筆

週間 超勤時間 総計 (hh:mm)：0:00

Fig. 2　CGM 日週報のフォーマットと記入例

作成日 ： 2012 年 9 月 18 日

九州大学応用力学研究所　技術室

出張・研修等報告書

職　　名	係長（技術専門職員）	氏　　名	石井　　大輔
班名／係名	観測班 ／ 観測計画係	旅費区分	大学（事務局）経費
出張・研修等の名称	平成24年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修Ａ		
実施期間	2012 年 9 月 12 日 （水） ～ 2012 年 9 月 14 日 （金）		
出張・研修等の場所	国立大学法人熊本大学　黒髪キャンパス		
出張・研修等の目的	技術職員として職務遂行に必要な技術的資質の向上を図るため		
	分類（主目的）	大学等主催の技術職員研修全般	

出張・研修等の概要

上記の日程にて、平成24年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修Ａが熊本大学で開催された。事前に周知されていた同研修内容を検討した結果、今回の参加を希望した。

受講目的は既述の通りであり、九州各地の大学・高専から幅広い年齢層の技術職員が参集した。研修内容は、技術系／人事系講演と分野別講義・実習に加え、施設見学で構成されており、具体的な内容は以下に示す。

初日は、震災被害を受けた東北・気仙沼湾の海底調査ならびに再生支援事業にかかる講演と、熊大および同技術部の人材評価に関する講演が行われた。二日目は、分野別講習として情報処理コース「MySQLで簡単データベース」を受講した。最終日は、熊大の自然エネルギー導入事例に関する講演が行われた。その後、実際の太陽光発電施設やモノづくり工房を見学し、担当者から様々な説明を受けた。最後の閉講式にて、受講者全員に研修修了証書が交付され散会となった。

所感

震災復興支援事業の一環である気仙沼湾の海底調査に関する講演は、衝撃的な事実とともに同湾復興に多くの労力と時間が必要であることを改めて知る大変貴重な機会であった。特に、津波による湾内環境の激変、重金属／重油による海洋汚染、削剥による海底地形変化など、平穏な同湾に襲った様々なインパクトは、想像を超えるものであった。また、人材評価に関する講演は、先進的な取り組みに共感を抱く一方で、九大および応力研技術室との現状格差を認識する場となった。さらに、モノづくりを気軽に実行できる環境を整備し、学内技能免許を取得した学生自身にモノづくりを体験させるモノづくり工房の存在と運営手法が印象的であった。

特筆事項（発表題目 ／ 修得技能 ／ 資格・免許取得 ／ 受賞 など）

MySQLを用いたデータベース環境構築にかかる初歩的技能の修得

入手資料等	研修員ノート、各分野別講習資料、各種講演資料、 技術セミナー（モノづくりフェア2012）案内状、修了証書
本書への添付資料	受講ならびに施設見学における写真一覧

Fig. 3　CGM 出張・研修等報告書のフォーマットと記入例